

ほっといんふおめーしょん

1 シンリンオオカミの群れづくり

ミッドナイト(オス)、サラ(メス)の2頭に新しく若いメスが富山市ファミリーパークから仲間入り。名前はハチ。何度かの見合いを繰り返して、すんなり群れに受け入れられたよう。写真は群れの大おばさんサラ(左)のご機嫌を伺うハチ(右)。(3/28来園)

3 ホオアカトキが仲間入り

野生では北アフリカ・モロッコなどに200羽程度しか生息しない希少なトキ。国内12の動物園で現在約100が飼育されている。トキの繁殖をめざそうとする大森山にオス3、メス3計6羽が上野動物園から贈られた。さっそく、2つがいが増え、ヒナ誕生するか。(4/4来園)

5 アメリカビーバーの三つ子

春の開園日3月19日に誕生したビーバー三つ子ちゃん。お母さんの元にいるときは仲良く3頭一緒だが、何故かプール入るとバラバラ。でも時にお母さんの尻尾にくっついて並んで泳ぐ姿、さすが親子と感心させられる。(3/19誕生)

2 アムールトラが新たに登場

体長3m以上、体重300kgにもおよぶネコ科最大級の動物。ウィッキー(写真)は富士自然動物公園からやってきた。アムールトラにしては少々小柄で体重は250kg程度だが、それでもこれまでのベンガルトラと比べると格段の差、ガラス越しに見るウィッキーの大きさと威圧感に誰もがびっくり。(3/12来園)

4 赤ちゃん誕生 イヌワシ

日ごと大きく成長するヒナ。7月上旬までにはすっかり羽も生え替わり、巣立ちをむかえる予定。写真は4月14日に孵化した最初のヒナ。(1羽目4/14、2羽目が4/16誕生したが、2羽目は残念ながら5/21死亡)

6 カナダヤマアラシに赤ちゃん

北米の森林にすむ彼らは一日のほとんどを木の上で過ごしている。去年に続き、今年も繁殖に成功。とげはあっても子の姿、やはり愛くるしいもの、静かな人気もの。お乳を飲む以外、木の上でいつも一人(?)でくつろぎモード。(4/16誕生)

7 グラントシマウマの誕生



誕生から2ヶ月が経ち、展示場に展示出来るまでに成長。母親のナイーブに甘えたり、走り回ったりと愛嬌を振りまいている。5月の下旬には、別飼育している父コタロウとの同居予定。(3/15誕生)

8 フタコブラクダに赤ちゃん誕生



母親・田田(テンテン)の12頭目となるメスの赤ちゃん。5月2日、父親・蘭泉(ランセン)が老衰で亡くなる2日前に誕生。命をとなげようとする動物の不思議な力を感じてしまう。

訃報



チンパンジー ミュキ(メス) 享年20歳 (1984年6月21日生まれ)

大森山のチンパンジー2世誕生の期待を背負って、熊本県にある三和化学研究所から3年前にやって来たミュキが、4月5日に20才(人なら40才くらい)の若さで他界しました。ここ数ヶ月、原因がはっきりしないまま体調が芳しくなく困っていましたが、食事中発作を起こし、食べたものをのどに詰まらせて窒息死してしまいました。詳細は検査依頼中ですが、ひ臓のガンと慢性的に心臓が悪かったようです。

ミュキはとてもシャイなそして人見知りする性格でしたが、群れのユミノスケやノリコともうち解けあい、仲睦まじくしていた姿が思い出されます。安らかにお眠り下さい。

フタコブラクダ 蘭泉【ランセン】(オス) 享年27歳 (1978年3月生まれ)

中国甘粛省蘭州市との友好都市締結に先立ち、1982年に蘭州市から秋田市に贈られ、長年飼育してきた蘭泉が5月4日、長寿、老衰のため亡くなりました。

蘭泉はこれまで15頭の子を残し、子どもたちは日本全国の動物園に送られるなど、国内の動物園のラクダ飼育展示に大きく貢献してきました。5月2日には蘭泉15番目となる赤ちゃんが生まれ、その誕生を見届けるようにその2日後、静かに息をひきとりました。



シロイワヤギ デミー(メス) 享年13歳 (1991年5月25日生まれ)

子どもたちに「シロヤギさん」と呼ばれ、密かに人気があったデミーが5月5日老衰のため亡くなりました。デミーは、92年5月29日、三重県御在所岳にある(財)ニホンカモシカセンターからやってきました。大病もせず長生きしてきましたが、昨年春に立つことができなくなり、懸命の治療で奇跡的に回復し、その後は静かな場所で余生をおくっていました。しかし今年の春、再び立てなくなり治療を続けていましたが、炎が消えるように静かに息をひきとりました。